

理学療法学科 [4年制]

AP

入学者の受け入れ方針

アドミッションポリシー

理学療法学科では、卒業認定・専門士授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を各種入学試験を通じて受け入れる

- 1 穴吹学園の教育理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある人
- 2 医学および理学療法に関する専門知識と技能を学ぶための基礎学力を身につけている人
- 3 疾病や障害を持つ人の気持ちに共感し、障害の予防および改善に取り組む意欲を持っている人
- 4 保健、医療、福祉、スポーツ分野に強い関心を持っている人

CP

教育課程編成・実施の方針

カリキュラムポリシー

理学療法学科では、DPに掲げる能力を身につけるための教育課程として、必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を行う

- 1 1年次には、医療人としての倫理観や理学療法の枠組みを理解するとともに、人体の構造と機能について系統的に学習する。
- 2 2年次には、段階的な講義や演習、実習の教育カリキュラムを通して理学療法実践の基礎となる臨床医学、基礎理学療法学の知識を習得する。
- 3 3年次には、専門科目によって疾患別、障害別理学療法法の展開に必要な知識、思考、技術を身につけ、臨床推論に基づいた課題解決力を培う。
- 4 4年次には、診療参加型臨床実習を通して実践能力を育成するとともに、チームの一員として個人や地域社会の健康課題を担う資質と自覚を高める。また、研究活動を通して、探究的な学習態度と基礎力を身につけ、卒業後のキャリアについて育成する。

DP

目指す人材像

ディプロマポリシー

理学療法学科では、履修規程に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たしたうえで下記の能力を備えていると判断した場合に、卒業認定および専門士の称号を授与する

- 1 健康増進や疾病予防、スポーツ、医療を介して多種多様なニーズに応え、地域社会、国際社会に寄与する志向を持っている。
- 2 医療人としてのプロフェッショナルリズムとコミュニケーション能力を身につけている。
- 3 臨床推論に基づいた基本的理学療法を提供するための基礎知識および基礎技能を身につけている。
- 4 社会保障制度や地域包括ケアシステムを理解し、保健、医療、福祉を担うチームの一員として多職種と協働且つ理学療法士としての専門性を発揮できる。
- 5 成長欲求を持ち、生涯を通して自己開発できる力を身につけている。

目指す資格

- 理学療法士 [国家資格]
- スポーツ科学トレーナー
- 初級バラスポーツ指導員 (予定)
- 日本トレーニング指導者 (JATI-ATI) (予定、希望者のみ)

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>
到達目標	医療人ならびに理学療法士としての倫理観、責任感を身につける。正常な人体の構造と機能を理解する。		疾患の病態と症状の関連を理解する。理学療法における検査・測定が実践できる。初級バラスポーツ指導員の資格を取得する。		疾患別理学療法の理論および技術を身につける。患者像、障害像が把握できる。スポーツ科学トレーナーの資格を取得する。		指導者のもとで基本的な一連の理学療法プロセスを実施できる。主体的な探究と研究結果を分析し発表できる。生涯を通して学びの必要性和自らのキャリアについて考えることができる。	
カリキュラム	講義 リハビリテーション医学概論 演習 人間育成学Ⅰ 講義 生化学 講義 解剖運動学Ⅰ 実技 体表面解剖学Ⅰ 講義 解剖生理学Ⅰ 講義 解剖生理学Ⅲ 講義 解剖生理学Ⅳ 講義 心理学 講義 物理学 講義 健康科学 演習 情報科学 講義 統計学	講義 理学療法概論 講義 医学英語 講義 病理学 講義 解剖運動学Ⅱ 実技 体表面解剖学Ⅱ 講義 解剖生理学Ⅱ 演習 生理学演習 講義 人間発達学 講義 臨床心理学 講義 老年学 講義 スポーツ科学Ⅰ 実技 理学療法評価学Ⅰ 講義 理学療法研究論Ⅰ 実習 見学実習	講義 保健医療福祉論 演習 人間育成学Ⅱ 講義 一般臨床医学 講義 基礎理学療法学Ⅰ 講義 基礎理学療法学Ⅱ 講義 リハビリテーション神経学Ⅰ 講義 リハビリテーション内科学Ⅰ 講義 小児科学 実技 運動療法学 講義 人間工学 講義 日常生活活動学 講義 生活環境学Ⅰ 講義 スポーツ科学Ⅲ 講義 バラスポーツ 実技 理学療法評価学Ⅱ 演習 理学療法研究論Ⅱ 実習 評価実習Ⅰ	講義 リハビリテーション栄養・薬理学 講義 リハビリテーション診断学 実習 解剖学実習 講義 リハビリテーション整形外科 講義 整形外科疾患の理学療法Ⅰ 講義 リハビリテーション神経学Ⅱ 講義 リハビリテーション内科学Ⅱ 講義 動作分析セミナー 講義 生活環境学Ⅱ 講義 スポーツ科学Ⅳ 講義 バラスポーツ 実技 理学療法評価学Ⅲ 演習 理学療法研究論Ⅲ 実習 評価実習Ⅱ	講義 理学療法管理学 講義 理学療法セミナー 演習 骨関節系理学療法演習 演習 ペーパーペーシェントセミナーⅠ 演習 神経系理学療法演習 演習 ペーパーペーシェントセミナーⅡ 講義 内部障害の理学療法Ⅰ 講義 内部障害の理学療法Ⅲ 演習 ペーパーペーシェントセミナーⅢ 講義 発達障害の理学療法 講義 装具学 講義 トレーニング理論 演習 理学療法総合演習 実習 総合臨床実習Ⅰ 実習 総合臨床実習Ⅱ	実習 理学療法総合演習 演習 卒業研究		
スケジュール	4月 ●入学式 ●新入生オリエンテーション 5月 6月 ●学生親睦会 ●冬休み 7月 ●国際交流会 ●穴吹祭 8月 ●夏休み 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 ●見学実習 2月 ●見学実習 3月 ●医療系海外研修 (※希望者) ●春休み	4月 5月 6月 ●学生親睦会 ●冬休み 7月 ●国際交流会 ●穴吹祭 8月 ●夏休み 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 ●穴吹祭 2月 ●就職講演会 3月 ●医療系海外研修 (※希望者) ●春休み ●評価実習Ⅰ ●春休み	4月 5月 6月 ●学生親睦会 ●冬休み 7月 ●穴吹祭 8月 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 ●穴吹祭 2月 ●就職講演会 3月 ●医療系海外研修 (※希望者) ●春休み ●評価実習Ⅱ	4月 ●就職ガイダンス 5月 ●総合臨床実習Ⅰ 6月 ●学生親睦会 ●冬休み 7月 ●穴吹祭 8月 ●理学療法士国家試験 9月 ●スポーツ大会	10月 ●国家試験対策 11月 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 ●穴吹祭 2月 ●理学療法士国家試験 3月 ●医療系海外研修 (※希望者) ●卒業式

主な科目内容	
リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の概要を理解し、これから学ぶ臨床医学や専門分野に対する意識を高める。
スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	筋力の発揮やトレーニングにかかわる基礎知識の他、食事と運動パフォーマンスの関連などスポーツに関する幅広い知識を身に付ける。BIODEXなどを用いた筋力測定その他、跳躍力、持久力などについて実践形式にて学修する。
動作分析セミナー	ヒトの起立動作や歩行などについて観察・分析するための理論と方法を学ぶ。
解剖運動学Ⅰ・Ⅱ	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造と機能、関節運動のメカニズムについて学び、動作分析や運動療法に必要な基礎知識を身につける。
解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	神経(末梢・中枢神経系)および内臓(呼吸器・循環器・泌尿器・消化器など)の構造と機能、運動制御と運動学習について学ぶ。
リハビリテーション整形外科	骨関節障害を引き起こす主な疾患(変形性関節症、骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチ、スポーツ損傷など)の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
リハビリテーション神経学Ⅰ・Ⅱ	中枢神経・末梢神経・筋の障害を引き起こす主な疾患(脳血管疾患、神経筋疾患、外傷性脳損傷、脊髄損傷など)の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
リハビリテーション内科学Ⅰ・Ⅱ	理学療法の主な対象となる内部障害の原因疾患(呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、糖尿病、腎臓病など)の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
リハビリテーション栄養学・薬理学	栄養学の基礎、栄養障害とその対策について学ぶ。薬理学の基礎、薬理効果について学ぶ。
理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	関節可動域測定や徒手筋力検査法など理学療法領域で必要な身体機能の検査手技について学ぶ。
小児科学	小児の障害を引き起こす主な疾患(脳性麻痺、水頭症、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病、染色体異常、先天奇形など)の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
バラスポーツ	各障がいへの理解や具体的な指導方法、安全管理、競技の工夫などについて実践を交えながらバラスポーツ指導員に必要な知識を身に付ける。
トレーニング理論	トレーニングの基礎や理論、計画の作成について学ぶ。また、各種トレーニングの理論をもとに必要な知識や技術、指導方法について実践形式で学ぶ。
整形外科疾患の理学療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	骨関節疾患(変形性関節症、骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチ、スポーツ損傷など)に対する理学療法の理論と方法を学ぶ。
中枢神経疾患の理学療法Ⅰ・Ⅱ	中枢神経・末梢神経・筋の障害(脳血管疾患、神経筋疾患、外傷性脳損傷、脊髄損傷など)に対する理学療法の理論と方法を学ぶ。
内部障害の理学療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	内部障害(呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病、腎臓病、がんなど)に対する理学療法の理論と方法を学ぶ。
発達障害の理学療法	小児の障害を引き起こす主な疾患(脳性麻痺、水頭症、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病、染色体異常、先天奇形など)の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
運動療法学	関節可動域制限、筋力低下、持久力低下、姿勢異常、バランス・平衡機能低下などに対する運動療法の理論と方法を学ぶ。
日常生活活動学	日常生活活動(手段的日常生活活動を含む)の概念、範囲、評価方法(Bar thel index、FIMなど)、基本動作及びセルフケアの練習方法を学ぶ。
義肢学/装具学	義肢装具・福祉用具・車椅子などの種類、適応、適合性の確認、調整の方法について学ぶ。
情報科学	情報の意味および価値を理解するとともに、情報をIT(InformationTechnology)を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。
理学療法研究論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	EBM、EBPT、エビデンスレベル、診療ガイドライン、研究倫理、研究方法(研究疑問・研究仮説・研究デザイン)などについて学ぶ。
見学実習～総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	診療参加型臨床実習により、対象者との関係性、多職種との関係性、理学療法プロセスを学び、理学療法評価、リスク管理、理学療法治療技術を実践する。

作業療法学科 [4年制]

AP

入学者の受け入れ方針

アドミッションポリシー

作業療法学科では、卒業認定・専門士授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)に定める教育を受けるために必要な、知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を各種入学試験を通じて受け入れる

- 1 穴吹学園の教育理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある人
- 2 作業療法を修得するために、高等学校の教育内容を幅広く学修している人
- 3 自分の考えを伝えるためのコミュニケーション力・表現力を有している人
- 4 保健医療福祉業界の専門職業人として社会に貢献する意欲のある人

CP

教育課程編成・実施の方針

カリキュラムポリシー

作業療法学科では、DPに掲げる能力を身につけるための教育課程として、必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせる授業を行う

- 1 1年次では、基礎分野科目と基礎医学・臨床医学の専門基礎分野科目を学び、基礎的知識、技能を身につける
- 2 2年次では、各専門分野について、段階的な講義・演習・実習の教育カリキュラムを通して専門知識と技能を身につけ、課題分析力を培う
- 3 3年次では、医療福祉機関において臨床実習を行い、これまで習得した知識と技能の実践的活用方法と情熱をもって地域貢献できる使命感と探究心を育成する

DP

目指す人材像

ディプロマポリシー

作業療法学科では、履修規程に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たしたうえで下記の能力を備えていると判断した場合に、卒業認定および専門士の称号を授与する

- 1 地域社会・国際社会に貢献できる作業療法士の知識と技能を身につけている
- 2 対象者との信頼関係を築き、医療チームの一員として協働できるコミュニケーション能力を身につけている
- 3 対象者が抱える問題解決を意欲的に取り組む姿勢を身につけている
- 4 医療人としてのプロフェッショナルリズムを身につけている

目指す資格

- 作業療法士 [国家資格]
- 福祉住環境コーディネーター2・3級
- 初級バラスポーツ指導員 (予定)
- 児童発達支援士

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>
到達目標	基礎分野科目と基礎医学の専門基礎分野科目を学び、基礎的知識、技能を身につける。	基礎分野科目と基礎医学および臨床医学の専門基礎分野科目を学び、基礎的知識、技能を身につける。	身体障害や精神障害など各専門分野における専門知識と技能を身につける。	各専門分野における専門知識と技能を身につけ、課題分析力を培う。	各専門分野における専門知識と技能を身につけ、地域作業療法に関わる知識を身につける。	専門的知識と技能をスキルアップすることで、視野を広げ探究心を身につける。	医療福祉機関における臨床実習を通じて、これまで習得した知識と技術の実践的活用方法を身につける。	地域社会に貢献できる専門士として、探究心を実際の行動や成果として形にする力を養う。
カリキュラム	講義 コミュニケーション論演習 講義 社会学 演習 情報科学 講義 解剖運動学概論 講義 上肢解剖運動学 講義 心理学 講義 人間発達学 講義 生理学I 講義 内臓学 講義 リハビリテーション医学概論 講義 作業療法概論 講義 基礎作業学 講義 地域共生学I	講義 健康学 講義 下肢体幹解剖運動学 演習 解剖運動学演習 講義 臨床心理学 講義 精神医学 講義 脳機能解剖学 講義 生理学II 講義 病理学 講義 一般臨床医学 講義 生活支援学 講義 作業科学 実習 作業治療学実習I 講義 作業療法評価学概論 実習 見学実習	講義 精神障害作業療法学概論 講義 精神障害作業療法I 講義 発達障害作業療法I 講義 整形外科I 講義 義肢学 講義 神経病I 演習 生理学演習 講義 内科学 講義 リハビリテーション栄養学・薬理学 演習 生活支援学演習 講義 神経筋作業療法評価学 講義 運動器作業療法評価学 講義 地域共生学II	実習 解剖学実習 講義 精神障害作業療法II 講義 発達障害作業療法II 講義 運動器疾患作業療法II 講義 運動器疾患作業療法II 講義 中枢神経疾患作業療法II 講義 作業療法理論 演習 画像評価学 講義 地域作業療法学 講義 住環境調整学 講義 福祉用具学 講義 統計学 演習 スキルアップ専攻学I 実習 評価実習I	講義 キャリア形成学 講義 就労支援学 実習 装具学実習 演習 生活行為向上マネジメント演習 講義 作業療法管理学 演習 ペーパーペーシェント 講義 保健医療福祉連携論 講義 作業療法研究論I 実習 スキルアップ専攻学II 実習 評価実習II	医療福祉機関における臨床実習を通じて、これまで習得した知識と技術の実践的活用方法を身につける。 講義 地域作業療法 講義 住環境調整学 講義 福祉用具学 講義 統計学 演習 スキルアップ専攻学I 実習 総合臨床実習I 実習 総合臨床実習II	地域社会に貢献できる専門士として、探究心を実際の行動や成果として形にする力を養う。 演習 作業療法研究論II 講義 作業療法治療応用学 講義 バラスポーツ学 実習 総合臨床実習II	
スケジュール	4月 ●入学前学習 ●入学式 ●新入生オリエンテーション 5月 6月 7月 ●国際交流会 ●穴吹祭 8月 ●夏休み 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 2月 ●見学実習 3月 ●医療系海外研修(※希望者) ●春休み	4月 5月 6月 7月 ●国際交流会 ●穴吹祭 8月 ●夏休み 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 ●評価実習I 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 2月 ●就職講演会 3月 ●医療系海外研修(※希望者) ●春休み	4月 ●就職ガイダンス 5月 ●総合臨床実習I 6月 7月 ●穴吹祭 8月 9月 ●総合臨床実習II ●スポーツ大会	10月 11月 ●評価実習II 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 2月 3月 ●医療系海外研修(※希望者) ●春休み	4月 ●就職ガイダンス 5月 ●総合臨床実習I 6月 7月 ●穴吹祭 8月 ●総合臨床実習II 9月 ●スポーツ大会	10月 11月 ●国家試験対策 12月 ●学生親睦会 ●冬休み 1月 2月 ●作業療法士国家試験 3月 ●医療系海外研修(※希望者) ●卒業式

主な科目内容	
心理学	こころのしくみと行動を科学的な方法で探求し、作業療法を展開するために学ぶ。
社会学	社会は個々人の集まりであり、それ自体として政治・経済・法や道徳・教育・家族・宗教などさまざまなシステムをもち、相互依存しながら存在している。それらの仕組みを理解する。
健康学	健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶとともに、地域の方々に健康増進に向けた体操や脳トレを行う。
上肢解剖運動学	人体の構造と骨の働きや関節の基本構造・筋・神経・血管など総論を学び、上肢と手指の運動についての理解を深める。
生理学I・II	神経(中枢、末梢)・筋・感覚・循環(血液と心臓)・呼吸・代謝・内分泌などの生理を学び、相関性を理解する。
人間発達学	胎児期から高齢期までの発達過程を学び、脳の発達、認知発達、社会性発達など、多角的な視点から人間の発達を学ぶ。
臨床心理学	児童心理学や心の健康に関する問題を抱える人々に対して、心理的な支援や治療法を学ぶ。
神経病学I・II	脳卒中、パーキンソン病など、神経系の病気の原因やメカニズム、症状について学ぶ。これらの知識を基に、作業療法介入の根拠を理解する。
精神医学	精神医学の基礎について学び、作業療法業務に役立てる。
作業療法概論	作業について、作業療法の領域、倫理、多職種連携、作業療法の目的について調べる。
作業療法理論	作業療法の歴史、人間作業モデルやカナダモデル、作業療法介入プロセスモデルなど、作業療法理論について学ぶ。
作業療法管理学	作業療法業務に必要な物品管理・診療報酬・関連法規および教育法・作業療法の倫理について学ぶ。
作業療法学実習I・II・III	臨床で用いられる幅広い作業の種目別技法を身につけるとともに、その作業を治療的に応用する視点を学ぶ。
作業療法評価応用学	評価の選択から評価計画、統合と解釈について評価のながれを理解する。
中枢神経疾患作業療法学I・II	脳卒中やパーキンソン病など、中枢神経に障害を受けた方の障害特性を理解し、生活行為の改善を支援するための知識、技術を学ぶ。
発達障害作業療法学I・II	脳性麻痺、自閉スペクトラム症など発達障害児の特性を理解し、子どもたちの生活能力向上を支援するための知識、技術を学ぶ。
精神障害作業療法学I・II	統合失調症をはじめ、気分障害・パーソナリティ障害・神経症障害などの精神障害の作業療法について障害特性・評価・アプローチ方法を学ぶ。
高齢期作業療法学	高齢期における作業療法実践、認知症、終末期について学ぶ。また、地域の高齢者との交流を通して、高齢者の生活や能力について理解を深める。
生活支援学	基本動作や生活行為の考え方を学び、各生活行為の特徴を観察・分析を行う。
スキルアップ専攻学I・II	こどものリハビリに必要な知識や技術をスキルアップできるように学ぶ。児童発達支援士などの資格取得にむけた援助を行う。
キャリア形成学	キャリアについて学び、作業療法士としてのキャリア形成について先輩の話を聞き、自身のキャリアビジョンを描いていく。
住環境整備論	バリアフリーやユニバーサルデザインおよび住宅改修について学び、福祉住環境コーディネーターの資格取得に向けて援助する。
福祉用具学	福祉用具全般(種類や活用法、適応やリスク管理など)について学び、自動具を製作する。
地域共生学I・II	地域の歴史や資源、活動など概要や地域コミュニティについて学び、地域の方と交流を通して、地域における作業療法士の活躍について学んでいく。
バラスポーツ学	作業療法とバラスポーツの関連性を学び、障がいのある方がスポーツを楽しむための理論と実践を学ぶ。障がい特性に応じた指導法などを習得し、バラスポーツの普及に貢献できる人材を育成する。
作業療法研究論I・II	学んできたことから研究疑問を持ち、研究計画をたてて研究を実施し、発表を行う。